

1日15ト続々と運び込まれる

～ミニトマト出荷最盛期～

当J A管内で、ミニトマトの出荷が最盛期を迎えました。8月上旬、平賀園芸センターには1日あたり約15トが入庫しました。

同センターでは、生産者が個人選別したミニトマトをパック詰め（1パック150個や200個）や3キロバラ詰めを中京市場や関西市場など11カ所の市場へ出荷。今年は昨年より1.4割多い18.1割で作付け、生産者は新規作付け者11人を含む169人が、11月末までに1070トの出荷を計画しています。

同センターの販売担当者は「去年は販売額が6億6500万円、出荷数量は1000トを超え過去最高の販売量となった。大口仲買人の参入が増え『みらい注文』が増加した」と話し、「全国的にミニトマトの作付面積が増加している中、品質の優れたものを提供し、市場の要望に応じて、産地の確立と有利販売につなげていきたい」と話しました。



運び込まれたミニトマト

管 理 の 徹 底 を

～黒石地区トマト栽培講習会～

黒石トマト部会（宇野誠部会長）は8月7日、今正樹さんのハウスでトマトの栽培講習会を開き、部会員12人が参加しました。

黒石基幹グリーンセンターの佐藤清昭営農指導調査役が、今後懸念されるトマトの状態や病害虫の発生状況と防除について説明。「今後も急激な温度の上昇、ゲリラ豪雨などが想定されるので、トマトへの生育ストレスを緩和させるためにも栽培管理を徹底してほしい」と呼び掛けました。



トマトの生育を確認する部会員（左）

日 ヤ ケ 果 に 注 意

～早生りんご「つがる」山選果基準会～

8月26日、各地区のりんごセンターなどで早生りんごの中心品種「つがる」の収穫に向けた山選果基準会を開きました。

J A職員が選果基準などを説明し、今年は高温による日ヤケには特に注意するよう呼び掛けました。



山形りんごセンター



板柳りんごセンター